

## 平成24年度 登別市立図書館 第1回検討懇談会 会議録

日時 平成24年8月29日(水) 午後4時～午後6時5分

場所 地域情報センターP i P会議室

出席者 【委員】 合田 美津子 須藤 和恵 柴山 太一  
【図書館】 澤田 時人 教育部長 大野 薫 教育部次長  
綿貫 亨 図書館長 太田 裕之 図書館主査  
高橋 隆宏 図書館主任  
【欠席】 三浦 澄子 松原 條一

### 議案

#### 1. 協議事項

- ・「第2次登別市子ども読書活動推進計画」の策定について

#### 2. その他

事務局から議事進行を合田さんに依頼したい旨提案し、出席者の了承を得る。

館長 計画の策定について、協議資料の「第2次登別市子ども読書活動推進計画(案)」に基づき内容を説明。

須藤 資料6ページの幼稚園や保育園でやってきた成果と取組のところですが、幼稚園や保育所での読み聞かせの講習会に参加してスキルアップに努めるというところではこの辺のところは少し足りなくて、成果と課題の②につながっていくのだと思うのです。

さらに今後の課題もそこにつながっていくのだと思いますが、今までは実質全然参加されていない状況だったのでこのあたりは力を入れてやっていただきたいのですが、アンケートの結果を幼稚園の方から見ますと読み聞かせの取り組みの項目のその他のところにある音読の時間を20分取り入れている幼稚園のことを良く知っていますが、その幼稚園では3歳から本は自分で読みましようという方法でやっているの読み聞かせはしていないと思います。その結果が問12の「読み聞かせやお話会をしていますか?」との問いで、結果は2か所ということです。幼稚園は4か所ありますので残り2か所については全く読み聞かせはしていないと読み取れると思います。その答えがそのまま問10の子どもたちに毎日音読を取り組ませています。長期休暇も家庭で取り組ませています。なぜ私がここに拘るかといいますと、「幼稚園で宿題が出ているのですがどうい本を子どもに読ませたら良いか教えてください。」との相談を受けるのです。

これでは読み聞かせという段階ですらなく、そういう現状が市内にある中で、取り組みとして幼稚園や保育所の先生の読み聞かせのスキルアップのための研修会や講座にはぜひ力を入れていただきたいという思いがあります。

保育所については、市内に5園あります。読み聞かせをしているのは毎朝ですというのが1園ですね。読み聞かせやお話会をしているのは年1回だと5園あります。している回数が毎日という所が4園でしていないところが1園くらいだけど、保育所に関しては何らかの形で読み聞かせをしているというのが読み取れるかなと思います。私としてはクラスによっても違うので園として括っているのが若干不安な部分が否めないのですが、読み聞かせが保育の中に取り入れてあるというのが感じました。

合田 幼稚園の方のスキルアップをしなければならない部分ですが、例えばこういう風に進んでいると、はたして読み聞かせに該当するののかというところが意味しなければいけない所でしょうけれども、意味づけが違う方法で本を提供しているところと、保育士さんや先生や職員の方が読んであげている程度のものなのか、その辺のところはどうなのでしょう。

館長 今回のアンケートでも「保育所は職員よりも保育士さんが読み聞かせをすることが多いです」という回答があったように、保育士さんに対して読み聞かせの研修をやっている市が結構あります。今現在うちは、第1次計画の取り組みの中に幼稚園教諭や保育士への読み聞かせの講習会がありますけれど、特に保育士さんに対し個別に通知を出して「読み聞かせ研修会をやりますから参加してください」といった通知はやっておりませんでしたので、これを「周知をより徹底し参加の促進に努めて参ります」と「今後の成果と課題」の中に盛り込みました。

合田 はたしてそのあたりがうまくいくのでしょうかね。幼稚園そのものがそれぞれ園の方針があって、内部的な事情があって、これらをどういう形で降ろして案内を出していくのかな。市の教育委員会の形で取り組めば若干効果が期待できますけれども。

館長 今の須藤さんのお話を聞いていると、その幼稚園はある種のポリシーを持って行っているのであるならば、そのポリシーを尊重せざるをえないと思うのです。

図書館で行っている読み聞かせの研修会というのは1日ですし、大半は本の紹介で読み聞かせ研修会という名前ですが、去年おとし行った研修も「こういう絵本が良いですよ」といった絵本の紹介が主で技術面ではないので、そういう趣旨からするならば参加していただき絵本に関する知識を深めるのは何ら問題ないのですから、どういう趣旨でこの講演会をやるのかというこちら側の説明によってはそういうポリシーの持ったところも参加していただけたと思います。

合田 幼稚園、保育所のことをよく知らないのですけれども、しっかりとした計画に基づいてやらないと、行ったけどもあの程度となると、逆に否定的な評価につながっていく問題点が考えられますので、これをもしやられるのであれば綿密にしっかりした計画を元にやるべきだと思います。登別の図書館の今の職員の質的なことでは、私にはいくつかのクエスチョンマークが付くのです。方針は賛成なので、それをどう具現化していくというのが大事だと思います。

須藤 絵本に関する知識とか芸術的なものや文化的なものを踏まえている方が読み聞かせ等をすると良いのですが、現状ではそこまで持っていません。あくまでも自助努力や園の方針でやられています。絵本は子どもが一人で読むものではないという基本的なことを分かっていたかかないと。作者・編集者・出版社も全部読んでもらうためにあるのです。それらを読んでもらうことで文化的なことや芸術ということが全部出されるのであって、読み聞かせをしないというのは… 読み聞かせが広がってほしい。

合田 ブックスタートについては、どのようになっていますか。

館長 ブックスタートの経緯は、導入時には2年くらい現行のやり方で進めて推移を見てということになっていました。ブックスタートに関しては皆さんご意見があるかと思えます。当市としてブックスタートをやらないのであれば、なぜやらないのかという説明が求められると思いますし、逆にやってどのような効果があるのかという点も出てくるだろうと思います。登別市版のブックスタートである「あかちゃんふれあい絵本」を毎月4カ月検診の時にしんた21でやっておりますが、これを今後も継続していくのか、それとも他市が行っているように本をあげるのか、ということが「子ども読書活動推進計画」の取り組みで当然多方面から出てくると思います。

「あかちゃんふれあい絵本」の再検討というのは、当初ブックスタートを始めるにあたって、本をあげた方が良いという意見とそうではないという意見の両方あったと聞きます。その結果中間を取るような形で、現在の本をあげない方式で当面やってみて、そのうえでアンケート等を取って再考するとの説明を受けております。

今年で2年ですので後1年くらい様子を見て、いずれにせよ本をあげる本当のブックスタートにいくのか、登別市版のブックスタートを続けるのかもう一度協議になりますので「子ども読書活動推進計画」に盛るべきものだと思っております。

須藤 8か月検診時に子育て支援センターによる絵本の読み聞かせをしていますということは、子育て支援センターの職員の方が読み聞かせをしているということで良いでしょうか。

館長 私はそう聞いています。申し訳ないのですが実際に見ていません。

須藤 ブックスタートを始めるにあたって私もこの会議の場で発言させていただいたのですが、他の市町村でこれが成功しているか否かの大きなポイントは、ただ本をあげたというだけでいいのかと言われたのです。本をあげることがブックスタートなのではなくて絵本を熟知している方、ちゃんとわかっている方が4か月、8か月の子に読ませた時に絵本を楽しむという経験をして、それをお母さんが見て楽しめるのだと実態を見て絵本を差し上げた時に「あっ、この本楽しいんだよね、それじゃ家でも」となるのです。そのためには本を差し出す教育委員会、検診をする福祉、絵本を読むボランティアの3つがきちんとなっていないと失敗しますよ。登別もただそれをしないでいて、やりました、リーフレットを配りただけだと成功するのでしょうかという発言をしました。こういう訳で今回の支援センターの方は福祉の人ですよね。ということはボランティアの人はここに携わっていない。子育て支援センターは保育士なので読みなれているから大丈夫ですと言われたのです。今言ったように読みなれていたらいいいのかという訳ではなくて、なぜ4か月で本を与えなければいけない、なぜ8か月で本を楽しめる、そこにはこの本1冊の中にどれだけの物が今後絵本につながるのかというのを伝えられなければ、読んで渡すだけなら誰でもできる。でも、これではブックスタートではないので、そこをきちんと素地がある方がそこに行って携わって1冊あげることに意味があることなので、「あげますから渡しておいてくださいね」というようなことだと失敗すると思います。予算の無駄だったのではないか、その後何にもつながらなかったではないかということになるので、私としてはぜひ本を差し上げたいのですけれども、差し上げるためには何が必要で何を事前になっておかなければいけないか、そのためには教

育委員会と福祉の方、絵本に携わる深い良識のある方との話し合いのもとで渡していく。

そのためにはきちんとした選書もしなければいけないと思うのです。赤ちゃん絵本なら何でも良いわけではないのです。

合田 これは私たちもずいぶん前に導入をお願いしていたのですが、色々考えていくと予算が90万から100万円あればできることなので是非やってほしいということで話をしている、現市長が公約ですというのがあるが今回は出さなかったのですが、この経緯で1回話があったのは知っています。ただし内容等については、少しは良くなったとはいえ図書館本館の働きがしっかりして職員が充実しているというところでやらないと形だけやっても私も須藤さんと同じ根拠をもっています。ですからせっかく使う100万円と言えども財政状況が厳しいなかで、他がやっているからやらなければならないということもないと一方ではこういう考えを持っています。もし、本当に導入が必要であれば相当な検討をしてからやらないと、人が圧倒的にいないなかで。導入しろと言った時は、私は8か月、4か月検診を実際に見にいきましたが、あの状態では導入しても無理だと思います。なぜ必要なのかというのをイギリスに行って見てきました。なぜ導入されたかという社会的背景も。社会が荒廃していてもなんとか子ども達をちゃんと育てたいという背景があって、こういったことがちゃんと理解されて実施しているかということと受け入れる側の質の問題もあると思います。

何でもかんでもやりますと言っても、いろんな状況の中で出来ないことが多いので、計画書自体はそつがなく前回よりは質の良いものが出来たと思います。実施計画と合わせてやっていくということになると、盛りだくさんの計画の内の優先順位を決めてやらないと、絵に描いた餅のような計画になってほしくないと思います。「1年目の目標は何、2年目の目標は何」と重点的な問題をきちっとやっていかないと。現実的な問題をきちんと押さえてしていく必要があると思います。今までが今までだったので、基盤が全くない図書館ですで大変ご苦労すると思います。今まで全く欠けていた部分の整理をして基礎作りをしっかりやってもらいたいと思います。遅れていることは取り戻せませんから。次の時代の図書館の話に移らなければならないのに、昔の図書館の形をまだ整えなければならないという遅れた図書館だという認識をもってもらいたいですし、行政内部の理解をどう作るかというのしシフトしてほしいなと実は思っているんです。そうでなければ職員の人々が頑張っても現実には負担がかかるというか実現がしにくいのではと思っています。また、学校司書の配置を働きかけて努めますと書いてあって心強いと思います。学校図書館の問題は司書教諭では絶対対応できませんからね。そうすると学校司書の配置というのは60年以上も働きかけて実現しないです。ようやく動き出してきた感じですよ。

次長 学校司書の件については、今回文部科学省の方で交付税措置をするといっていますので、2校に一人、週30時間専門に置けるので1校15時間ずつできますのでかなり対応できるのかなと。ただ、資格者の問題とか予算を一遍に確保できるかという問題はあるのですが、当方としましてはそれを目指してやっていこうというスタンスでいます。

合田 今までは12学級以上でないと置けなかったと思いますが、それだと学校間格差というか規模で分けてしまうのは法律等の決まりで仕方ないのだけれど、隙間があるよ

うな、格差を生むようなところは自治体で埋めるしかないですね。

館長 今回の第2次の力点も地域間格差の解消というのが1つです。

次長 そういう配置をしなければ学校がもたない。職員だけでは担任を持ったりするわけですから現実にはちゃんとした対応ができないということで学校もそういう方向で動いている流れです。

部長 今の流れとしては、平成25年度の当初予算に入れようという風に教育委員会では考えています。それはすぐ一遍になるか一部になるかはわかりませんが、我々としては財政当局に対して要求していこうと思っています。

次長 学校図書館に、先生ではなく専従の職員がいて子ども達がそこにいてできるという環境が作れるかなと思います。

柴山 ハードの方よりも人材育成の方にお金をかけなければ、という印象がありますね。全部やるにしても専門的な知識のある人がいないとできない問題だと思いますので、むしろそちら重点的に、色々な研修会等をやらないと何も始まらないのかなという気がします。

合田 今後の取り組みの所の身近に利用できる環境作りとありますが、配本所については紙芝居がある配本所が1か所だけとなっていて配本所見直しと同時にするということですか。

館長 そのとおりです。

合田 紙芝居だけを充実させるということでしょうか。人の問題はどうか。

館長 配本所は人によるサービス体制の問題もありますし、蔵書構成の問題もあります。例えば、資料の充実というのを第1次目標で謳っていて年齢層に応じた本や紙芝居の収集保存となっているのですが、紙芝居があるのは本館と鷺別だけでそれ以外には紙芝居は置いていません。子どもが来る場所は他にもありますから紙芝居をもっと置くといい蔵書構成の見直しに取り組むという趣旨で書きました。

合田 他に何かございませんか。

ないようですので、一度持ち帰っていつごろまで報告したらいいでしょうか。

館長 9月7日(金)までに気づいた点等を教えていただきたいと思います。また、「子ども読書活動推進計画」に関しては、欠席された方に対して案を郵送してご意見等があったら期日までに図書館に回答していただくという形で進め、特に意見等がなければ字句の訂正等を行って最終的な案の形にしていきたいと思っています。

合田 他にございませんか。

無いようですのでこれで終わりたいと思います。皆様お疲れ様でした。